

# 第一薬科大学

「データサイエンス教育導入プログラム」に係る

自己点検・評価書

令和6年4月

教務委員会 データサイエンス教育小委員会

### 1. 点検・評価の実施について

第一薬科大学教務委員会データサイエンス教育小委員会では、「データサイエンス教育導入プログラム」について令和5年度の点検・評価を行った。

### 2. 点検・評価の対象科目について

本プログラムを構成する「情報処理演習Ⅰ」及び「情報処理演習Ⅱ」について主に点検・評価を行った。

### 3. 点検・評価の結果

項目	点検結果	評価
履修・単位修得状況	履修率は、前年度と同様、両科目共に100%を維持した。 ・情報処理演習Ⅰ 履修者数：193名、単位修得者数：189名、修得率：97.9% ・情報処理演習Ⅱ 履修者数：198名、単位修得者数：183名、修得率：92.4%	両科目において高い修得率を維持しており、これは学生のデータサイエンスに対する理解と関心が高いことを示している。特に、情報処理演習Ⅰの修得率は非常に高く、ほとんどの学生が科目要件を満たしている。情報処理演習Ⅱでは、若干の修得率の低下が見られたが、それでも90%以上を維持しており、全体としては良好である。
教育効果	新たにデータサイエンス関連のケーススタディを取り入れた結果、学習成果の可視化に成功。学生の理解度と興味関心が向上している。	データサイエンスの実践的な学習を通じて、学生が批判的思考能力を養うことができた。今後も産業界の最新事例を取り入れることで、実践的な教育の質の向上を目指す。

<p>学生への授業 評価アンケート</p>	<p>授業に対する学生からのフィードバックは肯定的で、特に「シラバスとの整合性が取れていた」項目、「授業内容を理解させる工夫がされていた」項目での評価が高かった。平均評定は4.24で、これは学生が授業内容を高く評価していることを示している。</p>	<p>肯定的なフィードバックは、教育プログラムが学生の期待に応え、かつ教育目標を達成していることを示している。特にシラバスの透明性と授業内容の理解度向上に関する工夫は、学生からの評価が高い。また、学生が授業の質に満足しており、授業が学習目標に沿って効果的に運営されていることを反映している。</p>
<p>産業界との連携</p>	<p>第一薬科大学は「数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム」の会員校(連携校)として新たに承認された(2024年4月)。このコンソーシアムは、数理・データサイエンス・AI 教育の体制構築と普及を全国の高等教育機関で推進するものであり、本学では、全学生がこれらの分野の知識・技術を習得することを目指していく。さらに、国際競争力を持ち、産学で活躍可能なトップクラスの人材育成にも注力する。</p>	<p>コンソーシアムへの参加により、本学の数理・データサイエンス・AI に関する教育内容がさらに充実し、デジタル社会における医療分野での活躍が期待される人材育成が加速すると考えている。特に、他の高等教育機関との連携による知識・情報の共有は、教育プログラムの質の向上に直結しており、学生にとっても産業界にとっても有益な成果をもたらす。今後も、このコンソーシアムを通じて得られる学外のリソースとネットワークを最大限活用し、先進的な教育プログラムの実現を目指す。</p>